

## 高大連携

### 新たに3校と協定を締結

都立 成瀬高校  
神奈川県立 荏田高校  
神奈川県立 元石川高校

#### 「社会知性開発」の拠点として 地域貢献の役割担う

高等学校との教育交流を通じて、相互理解を深め、高校教育と大学教育の活性化を図ることを目的に2003年から始まった「高大連携」は現在、生田キャンパス近隣の7高校と教育交流活動を行っている。

06年度からは新たに都立成瀬高校、神奈川県立荏田高校、同県立元石川高校と教育交流に関する協定を締結、2月4日、生田キャンパスで調印式が行われた。

#### 高大連携協定校10校が集結

同日、新たに締結した3高校を含めた全協定校の関係者と、本学の高大連携連絡協議会委員らが集い、初の高大連携協議会が開かれた。

鈴木直次高大連携連絡協議会座長のコーディネートのもと、高橋祐吉副学長の基調講演を皮切りに、本学高大連携プログラム内容の紹介などが行われた。また、教科研修生を受け入れている、県立川崎高校から、研修生が果たした授業の効果などの報告がなされた。本学からは香山瑞恵ネットワーク情報学部助教授よりITを活用した教育支援システムのさらなる可能性が発表された。

各高校の教員からは、聴講生の感想や教育効果、今後の要望などが積極的に出され、今後の教育交流への熱い期待が伺われた。



都立成瀬高等学校・豊田岩男校長



神奈川県立荏田高等学校・本田満校長



神奈川県立元石川高等学校・長谷川昇校長



初の協議会開催で基調講演を行う高橋祐吉本学副学長(右)

## 06年度中期留学プログラム(前期)

### 米オレゴン大などに13人

06年度中期留学プログラム(英語コース・前期)の留学許可書交付式が3月24日、生田キャンパスで行われ、大林守国際交流センター長から許可書が手渡された。米オレゴン大学にはこのプログラムとしては初の留学生を送り出す。参加者は次の通り(敬称略)。

#### 【オレゴン大学=21週間】

▽籠島大祐(経済4)▽加藤あずさ(経済3)▽恩田浩司▽石附拓(以上、経済2)▽村山綾子▽桃木妙▽米倉由貴▽白井佑季▽西山記代▽榊田航▽前川達彦▽中島知子(以上、文3)

#### 【ワイカト大学(ニュージーランド)=12週間】

▽阿部麻衣子(文3)

## ネットワーク情報学部・栗芝プロジェクト

### QRコード利用し“街事典”

千代田区が区内の各大学、短大等を対象に募集した「千代田学※」に本学から、ネットワーク情報学部の栗芝正臣講師が指導する卒業制作のグループが選ばれた。4月から1年間、「QRコード(2次元バーコード)を利用した街事典および歴史教育コンテンツの研究開発」を行う。

メンバーのほとんどは3年次のプロジェクトIからの継続研究。プロジェクトでは、「Pocket Informationカードから見る街のかたち」をテーマに、過去からの時間と歴史の積み重ねにより現在の姿になった「都市」の形を情報の堆積という観点から見つめ直した。潜在している情報の繋がりを目に見える形にするため、神田キャンパスのある神保町や御茶ノ水、秋葉原界隈を中心にフィールドワークを行い、120枚の「街事典カード」を作成。カードは表が写真とQRコード、裏が地図になっている＝写真・左。

2月の学外展示会「コウサ展」では、企業から事業化へ協力の申し出もあり、子供連れの主婦からは「検索しやすく便利なカード。おいしいお店紹介などもあったらうれしい」といった感想もあった。

今回の研究では、108の地域を持つ千代田区全体の研究を行い、日本の政治・経済・文化の中心として発展してきた歴史的な変遷を知ってもらうことで、街の魅力を再発見してもらい、次世代を担う小・中学生に歴史や文化を学んでもらうコンテンツの提供を目的としている。

「カードには、現在の建物や特徴的な事柄を写真と文章で表現しました。QRコードを携帯電話で読み込むことで、その場所のかつての様子や歴史をWeb上から見ることができます」と仕組みを説明する代表の大河ひろみさん。「自分たちの作ったものが社会からどう評価されるのか、楽しみです」と期待がふくらむ。

「区内には大学、古書店、楽器店、電器店など、特徴的な街がいくつもあります。カードは書店などに置いてもらう予定ですが、それを並べ替えることで、さまざまなジャンルの切り口で情報を比較することができ、子供たちが、自分たちの街に興味を持つ学習支援教材になれば」と情報デザインが専門の栗芝講師は狙いを語る。

「今まではネットで何でも検索していたが、フィールドワークの大切さが分かった」「この場所は以前何があったんだろう、と街を歩いていても気になってしまう」とプロジェクトの感想を語るメンバー。「エリアが広いので、今までの作業の何倍も大変になる」という不安もあるが、区からは観光施策に沿った内容にしてほしい、英語版作成という要望もあり、官学連携に発展する話も進んでいる。活動の進捗状況については随時本紙で掲載していく予定。

※大学と区および大学と地域の連携を推進し、区に関するさまざまな事象を学問として学ぼうという試み。特に次世代育成支援にかかわる提案を求めている。



左上：表 左下：裏 右：携帯サイト

## 《緑地帯》

### 入学された皆さんへ

ご入学おめでとうございます。新たな生活への第一歩を踏み出された皆さんに、大学生活が充実したものになるようちょっとしたアドバイスをしたいと思います。

#### (1) 今しかできない勉強・読書を思う存分しよう！

受験勉強から解放された皆さんは、「よおし、思いっきり遊ぶぞ！」と思っているかも知れません。でも大学生活は4年間しかなく、あっという間に過ぎてしまいます。大学を卒業してから、「学生の時もっとちゃんと勉強しておけばよかった」と言う人が多いのは驚くほどです。卒業して働き始めたら、仕事に直結しない勉強や読書の時間をつくるのはなかなか大変です。これからの長い人生の中で、思う存分勉強や読書ができるのは今しかないのです。

#### (2) アルバイトはほどほどに！

経済的な事情でアルバイトをする必要がある場合は別として、単に「遊ぶ金欲しさ」なら、アルバイトは最小限にとどめたほうが良いと思います。今あわてて働かなくても、卒業すれば社会人として働くことになるのですから、今は学生にしかできないことをしてください。

#### (3) ボランティアやNGOでのアルバイトは？

もし大学での勉強以外のことにもチャレンジしたいのであれば、ボランティア活動やNGOでのアルバイトなども検討してみても？ 社会貢献・国際貢献に情熱を注ぐ若い人たちとの交流から、皆さんにとっても得るものが大いにあるかもしれません。

(学生部)

## 国際経済「NGO論」

### スタディーツアーの写真展示中

経済学部国際経済学科が05年度に新設科目として開講した「NGO論」受講者は、夏期休暇中にさまざまなNGOのスタディーツアーに参加し、タイ、メキシコ、東ティモール、インドでフィールドワークに従事した。

後期には、この経験をまとめて報告発表を行い、途上国で暮らす一人ひとりの立場に立って、国際協力のあり方を討議した。

スタディーツアー中に撮影した写真が、生田キャンパス9号館5階アトリウムで4月末まで展示されている＝写真。

